

ブンビナ国立幼稚園(TK. Negeri Pembina Denpasar)における交流

金子 恵美子
(こども学科 准教授)

今回のインドネシア・バリ島への研修は、学生6名が参加し、2018年3月2日(金)～8日(木)の日程で行われた。インドネシア・バリ島への研修も今年で3回目となり、2つの幼稚園の見学・交流と、2つの大学での交流、日本総領事館への表敬訪問などを行った。特に2つの大学との間では本学と協定が結ばれ、今後の連携・協力体制についての話し合いも行われるなど現地での交流も少しずつ深まってきている。また、今回の研修では、2つの幼稚園を訪問させていただいたが、その1つは現地の公立幼稚園であるブンビナ国立幼稚園であり、1回目、2回目の研修で訪問させていただいた大学附属幼稚園や私立幼稚園に加えて、公立幼稚園を訪問できたことは現地の幼児教育について知る上でとても有意義であった。ここでは、ブンビナ国立幼稚園での見学、交流の様子について振り返ってみたい。

今回、訪問させていただいたブンビナ国立幼稚園は、バリ島のデンパサールにある。朝早くからの訪問であったが、園の先生方が笑顔で迎えてくださり、緊張していた様子の学生たちも笑顔になり、研修前に学んできたバリ語で挨拶と自己紹介をしていた。



最初に、ブンビナ国立幼稚園のメイ先生、デニー先生、ラユ先生から幼稚園について説明していただき、その後に本学の学生、教員からもいろいろな質問をさせていただいた。

先生方のお話では、ブンビナ国立幼稚園では、勉強だけではなく遊びも大切にしており、その取り組みはデンパサールにある他の幼稚園のモデルにもなっているようである。子どもたち116人に対して、先生方は正職員の先生8人、契約の先生3人の11人であり、さらに園の清掃や調理を担当している職員の方が2人いらっしゃるということであった。ブンビナ国立幼稚園は、デンパサールでも非常に人気が高い園であり、子どもたちの入園にあたっては定員に達してしまて入れない子どもたちもいるそうである。子どもたちの入園は先着順で受け付けられているため、入園申込みの日には、早い保護者で朝3時くらいから並んでいるとのことであった。説明をうかがって驚いたが、どの国でも保護者の子どもへの愛情やそれゆえの教育への熱心さは変わらないことを感じさせられた。

先生方からの説明をうかがったあと、本学の学生からも幼稚園の様子について多くの質問が出さ

れた。学生たちは、幼稚園の週の流れや1日の流れがどのようなものであるのか、具体的にどのような活動をしているのか、また費用がどれくらいかかるのかなど、幼稚園の実際の活動の様子や運営に興味関心を持ったようで、1つ1つ質問させていただき、先生方からの回答に熱心に聞き入っていた。

週の流れについては、プンビナ国立幼稚園は月曜日から土曜日まで開いているが、月曜日から金曜日までの活動と土曜日の活動は異なっており、土曜日は部活動のような活動に取り組んでいるそうである。日本の幼稚園とは異なる活動であり、興味深かった。また、1日の流れは、子どもたちが登園し活動しているのは午前中であり、午後には子どもたちは降園する。先生方は、午後はその日の報告を行ったり、翌日の活動計画を立てたり、準備を行っているそうである。日本の幼稚園も午後2時くらいに降園になることが多いが、バリ島の幼稚園の降園時間は日本よりさらに早いようである。園での活動は、芸術、算数、国語、英語、子どもの自立に向けた訓練、社会常識、宗教、知性や身体能力に関わることなど幅広い活動が行われているそうである。絵を描く活動や伝統的な楽器（ガムラン）を練習する活動などでは、専門の先生に来ていただいて指導してもらっているとのことであった。基本的な生活習慣を身につけること、子どもたちの自立を目指すこと、文字の学習、英語、体操、スイミングなど園の方針によってさまざまな取組みが行われていること、また太鼓や鼓笛など音楽への取組みを行っていることなどは、日本の幼稚園や保育所とバリ島の幼稚園で共通する部分であり、幼児教育において、子どもたちの自立を目指した教育を行っていくことや、多くの経験を通して子どもたちの考える力や情緒を育てていくことはやはり重要であると考えさせられた。また、私たちが訪問した3月はニュピ祭（当日は電気を一切使わず、空港や店舗なども全て停止し、

人々は家から出ずに静かに過ごす）というバリ島でも一番大きな行事があるということで、子どもたちはそのときに飾る物を制作していた。季節の行事を大切にし、それに関連する活動をするということも日本の幼稚園や保育所とも共通しており、幼児教育が伝統を伝えていく一面も担っていることを改めて感じた。また、費用（保育料）については、公立であるため、国や市からの補助もあるが、100%負担されるわけではなく、保育料がいくらかかかるそうである。特に、幼稚園は園外活動が多く、そのためにかかる費用があるため、費用が高いイメージがあるとのことであった。プンビナ国立幼稚園の場合、入園のための費用はかからず、制服、月々約3000円の保育料（食費、野外活動費）が必要となる。私立の園では活動を行うごとに費用がかかるとのことで、さらに費用がかさんでいくようである。幼稚園の実際の活動の様子や保育料などの仕組みについても詳しくうかがうことができ、学生たちはバリ島の幼稚園への興味がさらに高まった様子だった。



その後、幼稚園の教室を見学させていただいた。学生たちは、教室の中にある掲示物や教材、おもちゃ、ロッカーや机なども熱心に見ていた。

最後に園の中にある広いスペースで、子どもたちが手遊びのような手振りを使った歌などを披露してくれ、そのお礼に本学の学生からも「さくらさくら」の踊りを披露し、子どもたちと交流した。学生たちにとっては、やはり子どもたちのかわいらしさや一生懸命な姿がとても印象的なようで、子どもたちのところへ行き、話しかけ、握手をしたりと、とても積極的にかかわっており、保育者を目指す学生らしい一面が見られた。

今回の研修でブンビナ国立幼稚園の先生方から多くのことを教えていただき、また子どもたちと触れ合う中で、学生たちは改めて自分たちが目指す保育者の仕事や、幼児教育や保育について考える機会となり、とても充実した研修となったようである。

